

共同助成(千葉県遊技業協同組合)

「帰還困難地域の文化+コミュニティ復活祭イベントの開催と発信によるコミュニティの維持と再生」事業

帰還困難地域の文化を未来につなげ コミュニティ再生の後押しをするイベントを開催

震災から6年経つ現在も帰還困難区域が7市町村にまたがる福島県相双地域。地域の文化やコミュニティの復活・再生を応援するため、地域の伝統芸能やサークル団体、小中学校の吹奏楽部などの発表イベントが南相馬市で開催された。この模様は地元の臨時災害放送局で生放送され、後日コミュニティFM局を通して全国に発信された。



南相馬市立原町第一小学校マーチングバンド部の演奏



「相双創造 未来へ伝えるコミュニティ祭り」開催を告知するポスター

伝統芸能から小中学校の吹奏楽の演奏まで 地域の文化活動が南相馬に集結

地域コミュニティの再生や、担い手を失った地域の祭りや文化の継承は、被災地の地域住民にとって、切実な問題である。

こうした地域の声を受け、「地域文化を通して再び人が集まり、新たなコミュニティづくりのきっかけになればいい」という思いでこのイベントを企画しました」と話すのは、「NPO法人人財育成支援センター」理事長の飯島茂樹さん。同団体は社会文化活動支援の一環として、震災直後より臨時災害放送局(臨災局)「南相馬ひばりエフエム」の配信などに協力してきた。また、こうした地元ネットワークをはじめ南相馬市教育委員会の協力を得て、地域の文化情報を収集するとともに、地域の民話を取材して語り部

に語ってもらいアーカイブ化する作業も進めた。

こうして2016年10月23日、原町生涯学習センターサンライフ南相馬で「相双創造 未来へ伝えるコミュニティ祭り」が開催された。当日舞台では、ご当地ヒーロー・相双神旗ディネードのショーを皮切りに、全国でも高いレベルを誇る地元の小中学校の吹奏楽部の演奏、10ダンス選手権日本代表の「原町グッドダンス」の華麗なダンス、「標葉せんだん太鼓保存会」の和太鼓体験、宝財踊り「宝会」や相馬市のよさこい「天真 馬陵玄武」の舞が披露され、伝統芸能から地元のサークルや学校まで、地域の様々な世代の文化活動に触れる機会となった。また、会場の外では千葉県をはじめ地域を応援する各地の物産の販売も行われ、集まった300人以上の地域住民が秋の1日を楽しんだ。実施にあたっては、AJOSCと千葉県遊技業協同組合からの助成が活用された。

コミュニティFM局を通じて イベントの模様を全国の避難者に発信

イベントの様子は南相馬ひばりエフエムで生放送され、インターネットでもライブ配信された。さらにこのオンエアデータは民話のアーカイブとともに全国48局のコミュニティFMに配信された。震災直後から被災各地で大きな役割を果たしてきた臨災局が資金難で閉局に追い込まれている現状もあり、その存在意義を見直す機会にもなった。

飯島さんは今回のイベント開催を通じて、地域の人たちの実状やコミュニティ再生への思いを改めて感じたという。例えば、合唱を披露したいわき市立好間第一小学校は生徒の約4割が他地域からの避難者だが、合唱を通して学校が一つにまとまったという。また、双葉町で結成された標葉せんだん太鼓保存会はメンバーの多くが各地に避難しており、演奏依頼が入ると現地に集まる。今回はメンバー



標葉せんだん太鼓保存会による和太鼓のワークショップ

の人数が集まらずワークショップでの参加となったが、子どもたちにはその技と熱い想いが伝わった。

「地域の人たちはそれぞれに頑張っています。でも、何かしたいけれどパワーがない、やり方がわからないという声も多い。それらに対して、提案しコーディネートするという支援が必要とされていると感じました」と飯島さん。イベントの続編として、次はコンサート形式にして相双地域の人たちが頑張っている姿を発信していきたいと意気込む。

千葉県遊技業協同組合より

被災地域のコミュニティ再生は最重要課題の1つだと考え、助成しました。地域文化を通じて新しいコミュニティづくりへのきっかけになることを願います。



江戸時代から相双地区に伝わる宝財踊り

助成団体: 特定非営利活動法人 人財育成支援センター

<http://www.npo-htc.or.jp>



地域のコミュニティづくりへの支援を継続していきたい

AJOSCにはイベントに参加いただき、またラジオ出演もいただきました。今回の事業の趣旨に賛同いただけたことを大変嬉しく思います。これからも地域のコミュニティづくりへの支援を続けていきたいと思っております。

NPO法人 人財育成支援センター
理事長 飯島茂樹さん